

組織で取り組む学業指導

～学業指導尺度の活用を通して～

平成27年度「栃木の子どもの学級と学習に関する調査研究(2年次)」の報告

学業指導とは



学業指導について確認したいのですが……。

学業指導とは、それぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し社会性を身に付けたり、意欲的に学習活動に取り組んで学力を向上させたりして自己実現(社会的自立)を図っていくための指導・援助のことです。



そうでしたね。もう少し詳しく教えてください。

学業指導には、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の2本の柱があり、それぞれについて3つの視点があります。学業指導を推進するには、この両側面から取り組み、相互の関連を図ることが大切です。



学 業 指 導 の 2 本 の 柱	
6 視 点	学びに向かう集団づくり
	子どもが意欲的に取り組む授業づくり
	帰属意識の高い学級づくり
	自信をもたせる授業づくり
	規範意識の高い学級づくり
	コミュニケーション能力を育む授業づくり
	互いに高め合える学級づくり
	一人一人の実態に配慮した授業づくり

本パンフレットについて

本パンフレットでは、学業指導を組織的に進めていく上で大切なことや研究協力校での実践の様子について報告します。



本年度は、小・中・高等学校、各1校に研究協力校として御協力いただき実践研究を行いました。研究協力校の実践では、昨年度の調査研究を通じて開発した学業指導尺度「学級と学習に関するアンケート」とその分析ツールを活用しました。併せて、平成26年度パンフレット「確かめよう学業指導」もご覧ください。

栃木県総合教育センター 組織で取り組む学業指導

検索



【H26年度学業指導調査研究パンフレット】

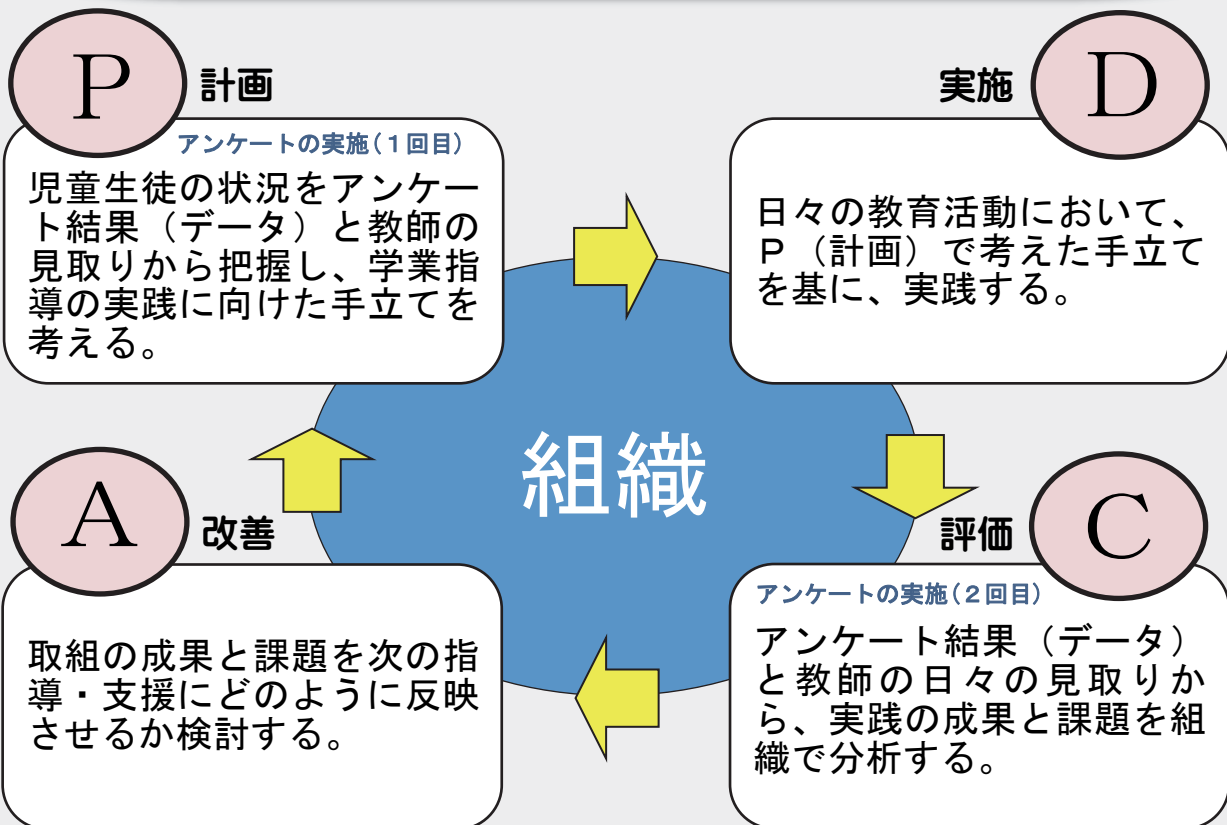
学業指導の推進に向けた組織的な取組

学業指導を推進するには、全教職員が自校の目指す児童・生徒像や今年度の重点目標（学校課題）を踏まえ、学業指導推進の方向性を共有することが必要です。さらに、学校組織マネジメントの視点を取り入れたPDCAサイクルを確立し、適宜学業指導の取組を改善していくことが大切です。



推進にあたっては、必ずしも新しい組織を設置するのではなく、（校務）運営委員会など既存の組織を活用することも考えられます。既存の組織を効果的に活用し、学業指導に全教職員で取り組むことで、児童生徒の確かな学力と社会性が育成されるとともに、教職員間のコミュニケーションが活性化され、同僚性の高まりにもつながると考えられます。

学業指導尺度「学級と学習に関するアンケート」*を用いたPDCAサイクル（例）



*学業指導尺度「学級と学習に関するアンケート」とは

学業指導の成果を子どもの姿から測ることのできる尺度です。児童生徒のクラスに対する意識やクラスの状況、児童生徒一人一人の意識や行動に関する客観的なデータが得られます。アンケートは、栃木県総合教育センターWebサイトより分析ツールと共にダウンロードすることができます。

http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/gakkyutogakushu_h26/

尺度における視点と2つの「鍵」

学業指導尺度を作成するにあたっては、教師側の指導である学業指導の6視点（表1）を、学業指導の成果として表れるであろう子どもの意識や行動として表2のように捉えました。

表1

学業指導の2本の柱	
学びに向かう集団づくり	子どもが意欲的に取り組む授業づくり
帰属意識の高い学級づくり	自信をもたせる授業づくり
規範意識の高い学級づくり	コミュニケーション能力を育む授業づくり
互いに高め合える学級づくり	一人一人の実態に配慮した授業づくり

学業指導の成果として表れる
子どもの意識や行動

表2

集団づくりの3視点から見た子どもの姿	授業づくりの3視点から見た子どもの姿
帰属意識	学習への自信
規範意識	コミュニケーション能力
互いに高め合う意識	学習への取組

アンケートの質問項目は、右のように表2の6視点（各5問）で構成しました。

昨年度の調査からは、「互いに高め合う意識」と「学習への自信」が他の視点と特に深く関わり合っていることが分かりました。この2視点を「鍵」と呼んでいます。

学業指導尺度「学級と学習に関するアンケート」

集団づくり

授業づくり

1	わたしは、このクラスの一員でよかったと思う。	帰属意識
2	わたしは、クラスのために役に立ちたいと思っている。	
3	わたしは、クラスの人みんなを仲間だと思っている。	
4	運動会や合唱コンクール・学校祭などの行事で、クラスのみんなと協力して頑張っている。	
5	わたしは、教室にいると気持ちが落ち着く。	
6	わたしは、授業が始まる前にいつも着席している。	規範意識
7	わたしは、学校やクラスのルールを守っている。	
8	わたしは、教室の机やロッカーを大切に使っている。	
9	わたしは、相手の気持ちを傷つけることを、言わないようにしている。	
10	わたしは、クラスの人とルールについて互いに注意し合っていると思う。	
11	友だちが助まってくれることで、やる気になることがある。	互いに高め合う意識
12	わたしは、運動会や合唱コンクール・学校祭などの行事で、クラスのために努力していると思う。	
13	友だちの意見を聞いて、自分の意見を考え直すことがある。	
14	わたしは、係や委員会などの仕事に工夫をしながら取り組んでいる。	
15	わたしは、クラスのみんなのよいところを知っている。	
16	授業でよく理解できなかったところを、そのままにせず、先生や友だちに聞いたり、後で復習したりするようにしている。	学習への自信
17	授業中、自分の意見が大切にされてうれしかったことがある。	
18	わたしは、授業中に先生からほめられてうれしかったことがある。	
19	わたしは、やる気をもって授業に取り組んでいる。	
20	わたしは、授業中、難しい問題を出されると、やる気が出てくる。	
21	わたしは、授業中、安心して発言することができる。	コミュニケーション能力
22	わたしは、授業中、友だちの意見や感想を最後まで聞いている。	
23	授業中、友だちや先生に、自分の考えを分かりやすく伝えようとしている。	
24	わたしは、授業中、話し合ったり教え合ったりすることで、自分の考えがよくなる。	
25	わたしは、話し合いの中でみんなの意見がまとまって、よかったと思うことがよくある。	
26	わたしは、勉強のことで先生に気軽に質問することができる。	学習への取組
27	わたしは、授業中、先生の手助けによって分からないことやできないことがわかる。	
28	ノートやワークシートなどの提出物に先生が書いてくれたコメントがある。	
29	わたしは、先生に話を聞いてもらって、勉強の仕方を見直したことがある。	
30	学習の内容や方法を自分で選べる授業は、取り組みやすい。	

研究協力校における実践

研究協力校における実践をPDCAの流れに沿って紹介します。

P

計画

視点の焦点化と指導の手立ての共有

校内研修の流れ

- 資料の分析（実態把握）（10分）
 - 1回目のアンケート結果（データ）と教師の日頃の見取りから、学業指導の6視点における学級の「強み」と「弱み」を分析し、ワークシートに記入する。
- 視点の焦点化（15分）
 - 学業指導の教育的効果を高めるために、視点を絞り込む。
- 手立ての検討（35分）
 - 焦点化した視点に関する手立てを付箋に記入する。
 - 班で共有する。
 - 全体で共有（情報交換）する。
- 手立ての具体化（5分）
 - 各自が明日から行う手立てをワークシートに記入する。

〈データと教師の見取りについて〉

数値だけでは見えない児童生徒の姿を、教師の日々の見取りからも把握します。

〈視点の焦点化について〉

学業指導の各視点は、互に関連し合っています。したがって、焦点化した視点だけでなく、他の視点に関する手立てについても検討することが考えられます。

校内研修ワークシート

ワークシート 学業指導 用紙 () 氏名 () 担当: 学年・分野等 ()

① 学級の傾向

データ	(よい面・強み)	(課題・弱み)
見取り		

② 働きかける視点

ア () イ ()

③ 手立て (具体的にできること、取り組めたいこと)

ア	イ
付箋に書き出す (前)	付箋に書き出す (後)

④ 明日から取り組むこと

ア

イ

各学校の校内研修と指導の実践はこちら！

小学校は p.4へ

中学校は p.6へ

高等学校は p.8へ



話し合いをもとに、具体的に個人が行う手立てを確認することが大切です。

真岡市立真岡東小学校

P

校内研修

学習指導主任が中心となり、全教員が参加して校内研修を行いました。

視点の焦点化



15分

(1) 学校全体として力を入れていく視点を二つに絞る

- ・互いに高め合える学級づくり
- ・自信をもたせる授業づくり

(2) 他の視点の検討

データと教師の見取りから児童の様子を捉え、学級ごとにもう一つの視点を選択するか、学年全体でもう一つの視点を選択するか、学年ごとの班で話し合った。

※データでは、各学年の数値が、6視点全てにおいて県平均を上回っていました。そこで、「鍵」である「互いに高め合う意識」と「学習への自信」に着目し、学校全体として上記の2視点に焦点化することとしました。また、他の視点に関する手立てについても学年ごとに検討しました。

学びに向かう集団づくり

互いに高め合える学級づくり

子どもが意欲的に取り組む授業づくり

自信をもたせる授業づくり



【視点についての意見交換】

学びに向かう集団づくり

帰属意識の高い学級づくり

子どもが意欲的に取り組む授業づくり

コミュニケーション能力を育む授業づくり

一人一人の実態に配慮した授業づくり

特別支援学級

2年1, 3組 4年1, 2, 3組

もう一つの視点

手立ての検討（学年）



30分

焦点化した視点に関する手立てについて、学年ごとに協議した。実践していること、実践してみたいこと、効果があると思うこと、学業指導に関する冊子やパンフレットなどの資料で参考となる点など、活発に意見を出し合っていた。



【学年ごとに手立てを検討】



手立ての具体化（個人）



10分



【手立ての共有】

他の学年の作業シートを見て回り手立ての共有を行った後、個人として明日から取り組みたい手立てについて、視点ごとに整理してワークシートに記入した。

明日から取り組みたい手立て（一部抜粋）

意識的に褒める（言葉のシャワー）

何でも言える雰囲気づくり

昼休みの学級遊び

帰りの会で友だちのよいところ発表

ミニ先生

ペアやグループ活動

発表・発言の場の確保

教室環境の整備

協議で出された「意識的に褒める」などの具体的な手立ては、新しい指導の方法ではありませんが、他の教職員の考えや実践を聞いて、改めて自己の取組を振り返ることができます。また、子どもを多くの目を見て指導していくためには、全教職員がベクトルをそろえ、考え方を共有する場をもつことが大切です。

D 指導の実際

日々の実践と児童の姿

こんな工夫もしていました

学習指導主任が学業指導に関する資料やデータ、記録等をパソコンで整理・管理をし、全教職員がいつでも見られるようにしていました。

互いに高め合える学級づくり

実践	小さな事でも認め、褒め、励ますことを心がけた。	児童同士でお互いのよいところを認め合う姿が見られるようになった。	児童の姿
	児童からのアイデアによる学級の係を取り入れた。	係活動の内容について、友だちとの意見交換や助け合いなどが盛んに行われるようになった。	

自信をもたせる授業づくり

実践	グループやペアでの学習を取り入れたり、安心して発言できる雰囲気づくりを心がけたりした。	進んで発表しようとする児童が増えた。	児童の姿
	学年で単元を通した教材研究を行い、教材への出会わせ方や発問の工夫などを検討した。	児童の意欲が高まり、難しい問題に粘り強く挑戦する姿が見られるようになった。	

もう一つの視点（一部抜粋）

実践	<帰属意識> 帰りの会や月末等に係活動の振り返りを取り入れた。	児童同士が進んで声をかけ合ったり助け合ったりする姿が見られるようになった。	児童の姿
	<規範意識> 学年で「東っ子のやくそく」の徹底を図った。（朝の会で確認、帰りの会で振り返り）	きまりを守ろうと心がけたり時計を見て行動したりする児童が増えた。	

研究授業・授業研究会

○2年1組 算数「かけ算」の授業における手立てと児童の様子

自信をもたせる授業づくり	一人一人の実態に配慮した授業づくり
児童が興味をもてるよう、かけ算を使う掲示物や具体物を何か所も用意し、だれでも必ず式をつくることできるようにした。 「たくさん式がつくれた」という声が多く聞かれた。 	活動中に教師は児童の様子を見て回り、つまづいている児童には適宜助言した。 教師の助言を受け、ワークシートに自分の考えを記入することができた。 

○5年2組 算数「単位量あたりの大きさ」の授業における手立てと児童の様子

互いに高め合える学級づくり	自信をもたせる授業づくり
児童が自分の考えを確かめたり、互いに説明し合ったりすることができる場を設けた。 友だちに分かるように説明したり、疑問点を質問したりする姿が見られた。 	自力解決が困難な児童に対し、T2が丁寧に既習事項を説明する場を設定した。 自席に戻ってから、説明を受けたことを自分の言葉でまとめようとしていた。 

学業指導に関する日々の実践と児童の姿を記録しておくことにより、実践に対する評価をすることができます。また、教職員間で児童の生活や授業の様子について情報交換をする機会が増えます。そのことは、教職員同士、教職員と児童のよりよい人間関係の構築にもつながります。

鹿沼市立北犬飼中学校

P

校内研修

学校課題を達成するための具体的な取組の一つとして、学業指導を位置付けました。
学習指導主任が中心となり、全教職員が参加して校内研修を実施しました。

学びに向かう集団づくり	子どもが意欲的に取り組む授業づくり
帰属意識の高い学級づくり	自信をもたせる授業づくり
規範意識の高い学級づくり	コミュニケーション能力を育む授業づくり
互いに高め合える学級づくり	一人一人の実態に配慮した授業づくり

視点の焦点化



15分

(1) 学級ごとに視点を選択

データと教師の見取りから学級の傾向を分析し、6視点の中から「改善したい視点」と「さらに伸ばしたい視点」を選択した。

(2) 学級ごとに視点を焦点化するか学年で統一するか検討

学級ごとに選択した視点で指導するか、学年ごとに視点を統一して指導するかを検討した結果、学年ごとに視点を焦点化することとした。

(3) 視点の決定

- ・ (1) (2) の結果
- ・ 学校課題

協議

焦点化する視点を決定した。

決定した視点

1年生	互いに高め合える学級づくり	コミュニケーション能力を育む授業づくり
2年生	互いに高め合える学級づくり	一人一人の実態に配慮した授業づくり
3年生	互いに高め合える学級づくり	コミュニケーション能力を育む授業づくり
特別支援学級	互いに高め合える学級づくり	コミュニケーション能力を育む授業づくり
		自信をもたせる授業づくり

手立ての検討（学年）

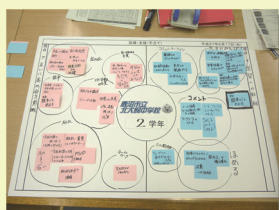


35分

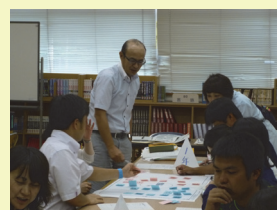
手立てを学年で検討することで、様々な案が出され手立ての幅が広がった。



【学年ごとの班で手立てを共有】



【同じような手立てごとに整理】



【全体で手立てを共有】

手立ての具体化（個人）



5分

学年ごとに検討した手立てを参考に、個人として明日から取り組む手立てをワークシートに記入し、意識化を図った。

「今日のMVP」を紹介する場を設け、意識して褒める。

【互いに高め合える学級づくり】

得意分野での活躍の場面をつくる。

【互いに高め合える学級づくり】

授業の中で、生徒同士が学び合える場を設定する。

【コミュニケーション能力を育む授業づくり】

学校課題の達成についても視野に入れながら、学業指導の視点を焦点化しました。このことで、学校課題である「夢や目標をもち、その実現に向けて自ら努力できる生徒の育成～キャリア教育の意図的・継続的推進を通して～」と学業指導が相互に関連し合って、教育的効果が高まると考えられます。

D 指導の実際

教師の気付き

「発言に自信をもてない生徒が多いと思っていましたが、実践を通じて、実は自分の意見を発表したいのだということに気付かされました。」

日々の実践と生徒の姿

互いに高め合える学級づくり

実践

他の人の意見を受容的に聞くことを話合いのルールの一つとした。

体育祭などの行事の反省で、用紙いっぱいを書くよう指示した。

意見を言える雰囲気になり、お互いに認め合う姿が見られるようになった。

自分の活動の振り返りだけでなく、友だちの頑張りなどにも目を向けて書くようになった。

生徒の姿

一人一人の実態に配慮した授業づくり

実践

アイデアや思いつきを褒めた。
作品の一部でもよい面を意図的に褒めた。

友だちが褒められる姿を見て、頑張ろうという意欲をもつ生徒が増えてきた。

生徒の姿

研究授業・授業研究会

○授業

3年1組 道徳 生命の尊さ 資料名「ドナーカード」

○この授業における手立て



【ドナーカード提示】



【授業風景】

互いに高め合える学級づくり

異なる立場や意見を尊重することを押さえた上で話合いをさせた。

コミュニケーション能力を育む授業づくり

お互い「目を見て話す・聴く」「相手の気持ちを考えて話す・聴く」ことを意識して話し合わせた。

○生徒の様子

「自分だったらドナーカードへの記入をどうするか」という発問に対して、資料に示された様々な考えの中で、自分に近い考えを理由を付けて記入し自分の言葉で伝えていた。

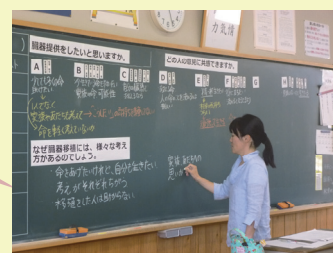
【コミュニケーション能力を育む授業づくり】



【発表の様子】

同じ考えの生徒同士で班を作ったが、少人数しか集まらなかった班も、自分たちの考えを大切に、意見をしっかりまとめていた。また、各班の発表の場面では、異なる意見に対しても耳を傾け、認め合う姿が見られた。

【互いに高め合える学級づくり】



【班の意見を整理して板書】

○授業研究会で出された意見

- ・他の考えを受け入れてから発言しようとしていた。
- ・自分の意見を言うことが苦手だった生徒も、コミュニケーションをとって、成長が見られた。

他の考えを受け入れながらも、はっきりと自分の考えを発言することができたのは、安心できる学級の雰囲気があるからです。互いに高め合おうとする意識が育まれるとともに、学級への帰属意識も高まっていきます。

県立上三川高等学校

P

校内研修

第1学年の4クラスを対象として、アンケートを実施しました。クラスごとに班（ホームルーム正副担任、教科担任等）を編成し、校内研修を実施しました。

学びに向かう集団づくり	子どもが意欲的に取り組む授業づくり
帰属意識の高い学級づくり	自信をもたせる授業づくり
規範意識の高い学級づくり	コミュニケーション能力を育む授業づくり
互いに高め合える学級づくり	一人一人の実態に配慮した授業づくり

視点の焦点化

15分

(1) クラスごとに視点を選択

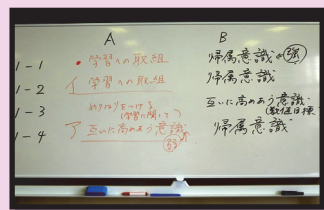
データと教師の見取りによるクラスの傾向分析を基に、6視点の中から、クラスの「改善したい視点」と「さらに伸ばしたい視点」を選択した。



【視点の選択】

(2) クラスごとに視点を焦点化するか学年で統一するか検討

クラスごとに選択した視点で指導するか、学年で統一した視点で指導するかを検討した結果、学年全体で統一することとした。



【各クラスの視点】

(3) 視点の決定

- ・(1)(2)の結果
- ・学校の重点目標
- ・「課題を改善するのか」「良さをさらに伸ばすのか」など

協議

決定した視点

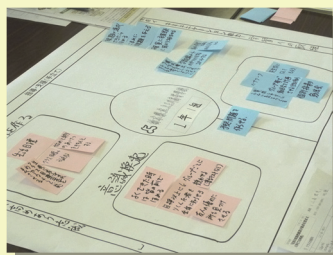
- ・互いに高め合える学級づくり
- ・一人一人の実態に配慮した授業づくり

手立ての検討（クラス）

35分



【各班で手立てを共有】



【同じような手立てごとに整理】



【全体で手立てを共有】

はじめに、各自で手立てを考えた。その際、具体的な手立てをイメージしやすくするために、アンケートの質問の中から、決定した二つの視点に対応しているそれぞれ五つの質問（p.3参照）を参考にした。次に、各班で手立てを共有し、同じような手立てごとに整理した。その後、全体で手立てを共有した。

付箋に記入された手立てより

- ・学習ノートを返却する際にコメントを添える
- ・友人の長所を出し合う

手立ての具体化（個人）

5分

個人として明日から取り組みたい手立てについて確認することで意識付けを行い、それぞれの具体的な取組のイメージを具体化させた。

各自の手立てより

- ・クラス目標の設定
- ・生徒同士が相談したり、意見を出し合ったりする場の設定

クラスの現状の把握、手立ての検討を組織的に行うことで、指導の方向性をそろえたり、様々な角度から手立てを考えたりすることができます。また、視点を焦点化する際には、どの視点にするか選択する場面が何回かありましたが、教職員は学校の実態などを踏まえながら一つ一つ決定していました。このことは、教職員が意欲的・主体的に取り組むことにつながっていきます。

D 指導の実際

日々の実践と生徒の姿

互いに高め合える学級づくり

実践

○グループ学習

個人で意見を書き出し、その後、グループ内で話し合いながら意見を一つにまとめる活動を授業に取り入れた。

○称賛

クラス全体に伝わるように学習への取組がよい生徒に声を掛けた。

互いの意見を認め合うことができていた。

周囲の生徒の学習への取組が向上した。

生徒の姿

一人一人の実態に配慮した授業づくり

実践

○学習形態の工夫

ワークシートの問題を解くにあたり、各自の習熟度に応じ解答の仕方（①教科書を見ないで解く②教科書を見ながら解く③先生や近くの生徒に相談しながら解く）を選択して取り組めるようにした。

○個別指導

勉強が苦手な生徒に対し、どこに着目して問題に取り組めばよいかを丁寧に指示しながら、個別に指導した。

クラスの全員が問題に取り組むことができた。

「分きたい」と前向きな姿勢を見せる生徒が出てきた。

生徒の姿

研究授業・授業研究会

○授業概要

- ・ 1年3組 数学Ⅰ 2次不等式
- ・ 正方形の厚紙の四隅から正方形を切り取って直方体（モデル）を作製する活動を通して、「切り取る正方形の1辺の長さ」と「直方体側面の長方形の面積の和」の関係を捉える。

○この授業における手立て



【班別活動の様子】

互いに高め合える学級づくり

友だちに分からないことを聞いたり、自分の考えを伝えたりできる集団を目指し、班別活動を取り入れて、対話の場面を設けた。

一人一人の実態に配慮した授業づくり

ワークシートに問題を解く過程を段階的に示し、全ての生徒が考えを記入できるようにした。机間指導を行い、適切なアドバイスを行った。

○生徒の様子

- ・ お互いに方法や考えを見せ合い説明し合ったり、班員に説明を求めたりしていた。
- ・ 教師から気付きを褒めてもらい、うれしそうな表情を見せていた。
- ・ 机間指導で助言された生徒は、「そういうことか！分かった」と取り組みはじめた。

○授業研究会で出された意見

- ・ 生徒同士で教え合うことで、学習内容がより定着していると感じた。
- ・ 気付きの早い生徒が他の生徒に教えていた。
- ・ 教師の声かけが適切であったため、それをきっかけに活動を始めていた。
- ・ 班別活動を授業に取り入れる際の課題（授業における活動場面と講義の配分、適切な学習課題の設定等）が見えた。



【授業研究会の様子】

行事やホームルーム活動における担任による指導だけではなく、授業の中で各教師が学級づくりや授業づくりの視点を意識して指導することが大切です。また、こうした意識をもって授業研究会を行うことは、教科の枠を超え、生徒の学びの様子から授業を捉え直すよい機会となります。

C

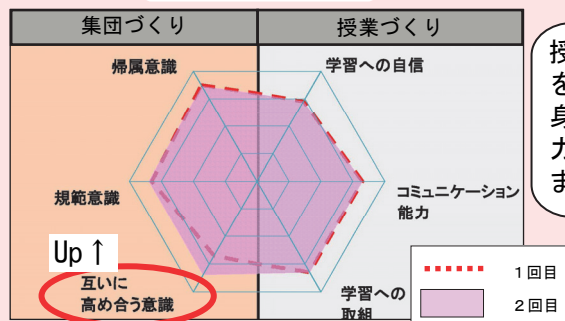
評価

児童生徒の変容を評価（分析）

「データ」と「見取り」から総合的に分析し、成果と課題を明らかにするための話合いの例を示します。

データと教師の見取りが一致している場合

【学級のデータ】



分析ツールに入力すると、学級のデータが上のようなグラフで表されます。

授業中に、友だちを称賛する姿、自身の向上に向け努力する姿が見られました。

見取り

1回目のデータと比較すると「互いに高め合う意識」の数値が少し伸びましたね。

データ

帰りの会で振り返りを行うなど、お互いを認め合う時間を設けたことがよかったのでしょうか。

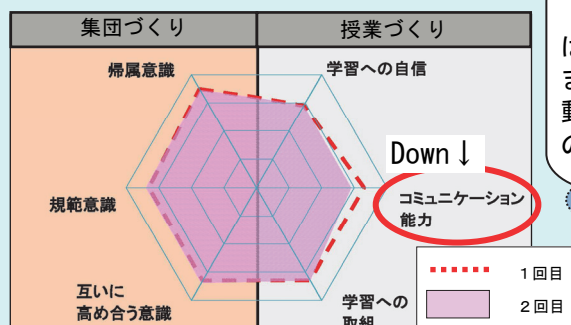
分析

数値が上昇した場合の話合いでは…

- ・取り組んできた手立てを確認、共有する。
- ・自分でも取り入れられる手立てがないか検討する。

データと教師の見取りが一致していない場合

【学級のデータ】



データ

「コミュニケーション能力」は、前回よりも数値が下がりましたが、授業での話合い活動の様子からは、子どもたちの活発さが感じられます。

見取り

確かに、話合いは活発ですね。でもデータが低いということは、何か問題があるはずですね。聞く姿勢に関する項目の数値を見てみましょうか。

分析

アンケート項目

21	
22	わたしは、授業中、友だちの意見や感想を最後まで聞いている。

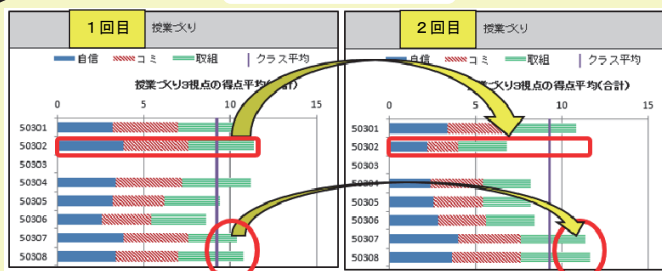
数値が上昇しなかった場合の話合いでは…

- ・上昇しなかった原因を見取りから探る。
- ・手立てを見直す。

学業指導を充実させるためには、学級全体と児童生徒一人一人の両方をしっかりと把握することが大切です。

個人のデータを確認する場合

【個人のデータ】



分析ツールに入力すると、個人のデータが上のようなグラフで表されます。

個人のデータを見る際のポイント

- ・1回目と2回目を比較して大きく変動のあった児童生徒を把握する。
- ・教師の見取りと差異のある児童生徒を確認する。



日々の実践においては、短期間の「指導と評価」を繰り返していますが、このC（評価）の場面では、2回のアンケート結果の比較や教職員の見取りから、年間を通した評価をし、学校全体で共有します。その際、課題だけに目を向けるのではなく、子どもの成長や教職員の取組を認め合うことも大切です。



改善

次年度へ向けての検討



C（評価）で明らかになった成果と課題に基づいて、次年度の学校課題について検討します。

運営委員会（職員会議）では、学年部会や学年ブロック部会からの成果と課題の報告を受け、次年度の学校課題にどのように反映していくかを検討します。また、課題を達成するための方針を検討します。

併せて、本年度のPDCAサイクルの各段階の取組を見直し、次年度への改善につなげていくことも大切です。

ミドルリーダーの役割

学業指導の推進にあたり、各校において中心となる児童指導主任・生徒指導主事、学習指導主任、学年主任等の役割を例示します。

児童指導主任・生徒指導主事、学習指導主任等

<校内研修に向けて>

- ・校内研修の内容に学業指導を取り入れるための計画立案を行う。
- ・なぜ校内研修で学業指導を取り上げるのか、教職員に周知する。

<情報の収集・提供>

- ・学業指導の手立てに関わる情報を収集し、打合せ等で教職員に提供する。
- ・学業指導という観点から見た研究授業の成果と課題を整理し視覚化してまとめ、教職員に発信する。

学年主任

<児童生徒理解>

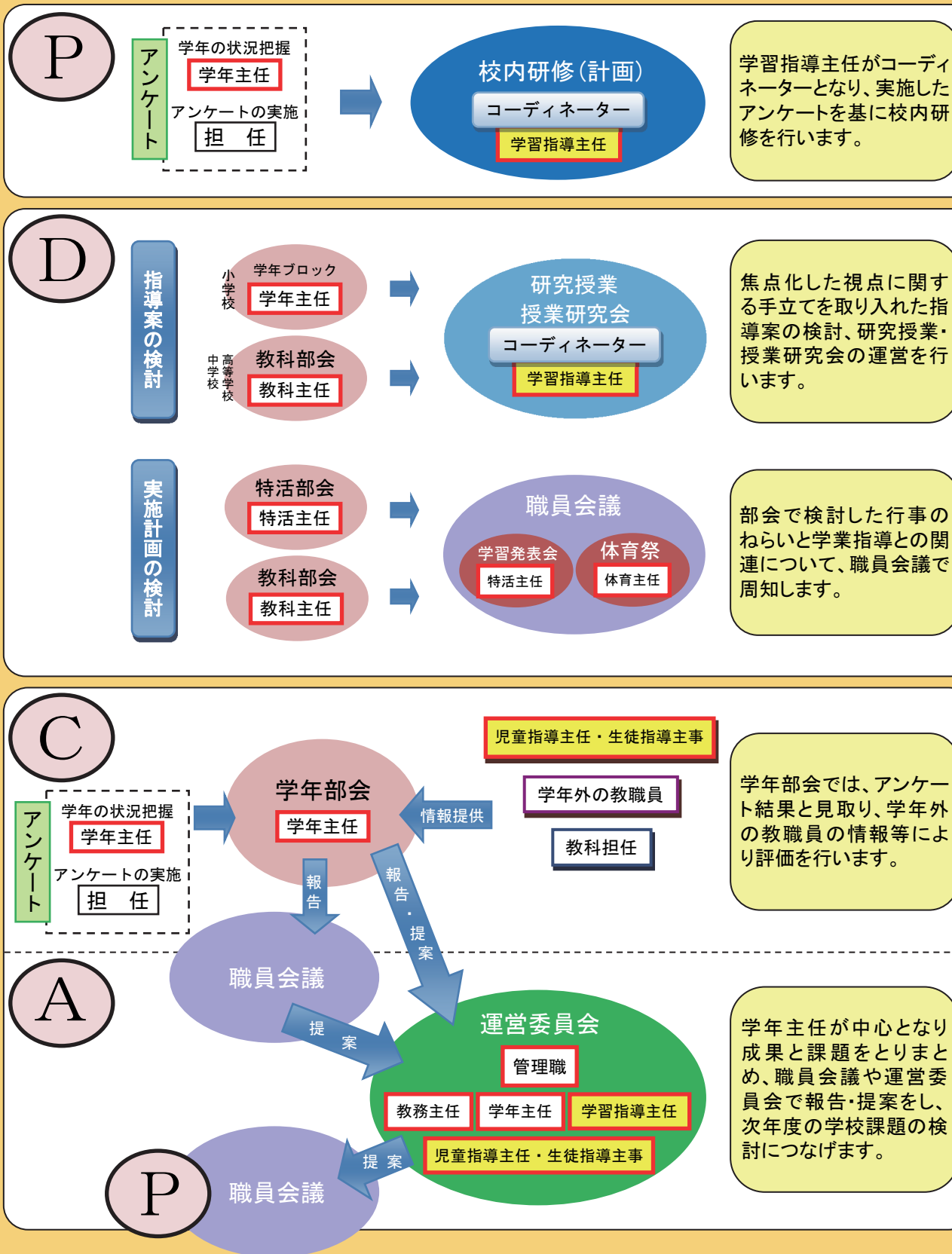
- ・学業指導の具体的な取組や児童生徒の変容を共有するために、学年部会で話し合う場をつくる。
- ・他学年の教員や養護教諭等と情報交換を行い、多面的に把握した学年の児童生徒の状況を担任に伝える。

<教職員間をつなぐ>

- ・日頃から、教職員同士が児童生徒の成長やよい点に目を向けた会話ができるような雰囲気づくりをする。
- ・児童指導主任・生徒指導主事、学習指導主任や教科担任等に学年の重点目標や取組状況を伝え、協力を仰ぐ。

PDCAサイクルにおける組織の在り方

既存の会議を活用した組織による取組について例示します。



学業指導という観点から子どものことを日常的に話題にして、全教職員で協働して取り組み、児童生徒一人一人の意欲を高め、集団づくり・授業づくりに努めましょう。

